



不登校・キレる夫・17歳問題等が
たちまち解決!

心に太陽をもつ 女性たちへ

父親研究所所長
住吉 克明

はじめに

父親研究所は、「子育ての駆け込み寺」「夫婦の駆け込み寺」です。

世の女性の抱えている悩みのほとんどは、当研究所のアドバイスでアツという間に解決してまいります。

例えば、キレル少年の問題、不登校、キレル彼、荒れる夫、夫の暴力、夫のギャンブル狂い、夫の不倫、17歳問題、中高年のうつ病等々……

そのような、男性における問題は、当研究所においては難問でも何でもないのです。

本書を読んでいたければ、誰にでもすぐに、これらの原因が見えて、解決のしかたがわかります。

実際に、日本全国に、その実績としての成功例が続出しています。

それが、日本で唯一の「父親研究所」たるゆえんです。

そればかりでなく、女性に関する問題としての、

・ 幼児の育て方。

・ イイ男を見分ける方法。

・イイ男をゲットする方法。

・なかなか結婚に踏み切れないで困っている女性へのアドバイス。

・男性とのお付き合いを苦手とする女性へのアドバイス。

・身の周りに不幸ばかりを背負い込んで、悩んでいる女性へのアドバイス。

それらの問題にも、日々の講演や、個別の面談、少人数でのセミナー等でお答えしています。ただし、少し困った問題もあります。

確かに、当研究所の手にかかれば「アツという間の解決」なのですが、そうは言いつても、本当に伝授するには、どうしても10時間ほどは必要だということなのです。

例えば、キレル少年の問題（家庭内暴力）を解決したい人が、当研究所に相談して、わずか10時間で解決にこぎつけたのであれば、それは大変な成果でありましょう。

ところが、現実には、多くの女性が解決をあせるあまり、

「1回だけの講演で、全部を解決したい」（約3時間）

「本書を1冊読むだけで、全部を解決したい」（約3時間）

「1回の面談で、全部を解決したい」（約3時間）
と考えるしまうのです。

もちろん、1回のセミナーを受けただけでも相当多くのことは伝授できますが、少なくとも、時

間の目安として、

「10時間は確保していただきたい」

ということだけは、重ねてお願いしておきたいのです。

つまり、それ以外に、あと2回ほどの学習を加えて、よく納得してから行動に入っていただきたいのです。

本書をお読みになった方の場合も、1回の通読の後すぐに夫婦の問題を解決できる人もいますとは思いますが、普通の場合は、それにプラスすること、

「友達と検討する」(約3時間)

「他の2冊(『父親大恐慌』『ケア父さんと太陽母さん』)のうちのどちらかを検討する」(約3時間)

「父親研究所の講演があつたら、聞きに行く」(約3時間)

そういった工夫を加えていただきたいと思えます。

みなさんに、そのような「じっくり取り組む姿勢」さえあれば、前にも言いましたように、世の中で難問と言われている問題は、それこそアツという間に解決してしまうのです。

もちろん、すべての評論家が難しいと言っている17歳問題だって解決してしまう。

そのような父親研究所のセオリーを、活用しない法はないのです。

しかも、すべてがタダのセオリーです。

今すぐ、あなたにもできる方法なのです。

それを身につけるだけで、女性はみな美しくなります。

なぜなら、長い間あなたを苦しめていた悩みから解放されるから。

そのキーワードが、

「女性はもともと、太陽であった！」

という提案です。

すべての女性の心を動かす、その提案の意味するところとは何か。

さあ、今から約10時間は学習に打ち込むつもりで、じっくりとおつき合いをお願いします。

著者

目次

はじめに 3

第1章 「女性太陽説」の登場

すべての女性がイイ女	12
イイ男をゲットする方法	16
サイテー男に尽くす女性	19
女性が尽くしてしまうワナ	23
女性の太陽の発生	27
のんびり型の誠実男がいい	30
宿業はあるのか	34
太陽があるばっかりに	37
サボテン女の登場	40

男の「根源不安」 45

「出鼻」でのケアとは 48

女性が加害者だった 52

太陽が輝けば 56

第2章 荒れる夫に、こう対処する

二つの対処法があります 62

認識の大転換が必要です 65

夫が怒り出す原因 69

もともとから悪い夫はいない 74

歯止めのきかない男性 78

女性の対処の二つとは 82

何はともあれ「おどける策」 86

「逃げる策」の効果 91

第3章 人の成長過程の「混乱期」

しつけとしての「消える策」	96
そうして「すばらしい策」	100
夫の「仕事ぶり」を褒める	104
ギャンブル狂いの夫	108
明らかな「犯罪」はどうする	114
ケアは笑顔が大事	119
声かけのキーワード	122
99対1の割合	126
量的認識の問題	129
人の成長過程にある「混乱期」	132
自然が作る「混乱期」	136
なぜ「混乱期」は発生するか	139

子育ての「二重らせん」 142

15年間の子供時代 146

10歳から15歳の子育て 151

男の子の「根源不安」 155

「かせごう男」で立ち上げる 158

女の子の「怖いものなし」ができた

163

「太陽」という名の愛情 168

男こそケアが得意だったのです 173

第4章 教育駆け込み寺

「育て分け」の発想 180

不登校はこう解決する 184

娘がキレている 189

息子がキレた！ 195

お母さんからキレル息子への殺し文句	200
ケアをすると「恩を仇で返す」が出る	205
ケアのパフォーマンス	209
相手のつらさを頂く	212
敵を知ることが大事	215
「愛情」に惑わされない	220
巫女さんの「三種の神器」	226
「闘争」は戦争を招く	230
あとがき	235

第1章 「女性太陽説」の登場

すべての女性がイイ女

みなさん、こんにちは。

父親研究所の住吉克明です。

当研究所は、「子育ての駆け込み寺」「夫婦の駆け込み寺」です。

どんな難問も、アツという間に解決。

そのアドバイスは、百発百中。ご期待ください。

さて、私は日頃の講演会やセミナーで、

「女性はみな、生まれながらにして、心に太陽をもっているんです！」

そう提案して、日本全国を回っているのですが、これがなかなか広まらないのです。

女性が、心に太陽をもつ。

その意味を一言で言えば、

「女性の心は、男性よりもはるかに優位だった！」

ということなのです。

それは、すばらしき女性支援としての提案なのですが、これが不思議なほど広まらないのです。当の女性たちにすら。

その理由は、おそらく、

「それほどに、世の中の女性が、男社会から圧迫感を感じているから」ということなのでしょう。

そうであれば、なおさら、声を大にして提案せざるを得ません。

「女性は誰もが、男性はもつことのできない太陽を、心に抱いているのです！」

「女性はもともと、太陽だった！」

即ち、女性の心とは「怖いものなし」だったのです。

女性はみな、太陽のように完璧な存在なのです。

そんな大事なことを、長い間、女性すら知らされていなかったのです。常にオロオロした心をもつ男性から見たら、

「女性はみな、頭の上がない存在」であり、

「すべての女性が偉大」であり、

「女性はみな、イイ女」ということなのです。

これを、「女性太陽説」と言います。

そのことを、今から90年ほど前に、女性人権運動の先駆者、平塚らいてうさんが、「原始、女性は太陽であった」と提案しているのです。

しかし、もはや、それを記憶している女性もほとんどいないのです。

それほど現代は、女性が輝かなくさせられている時代なのですが、そんな中であって、父親研究所という男性専門の研究所から、「女性太陽説」が再び提案されているということになります。

この新しい動き、おもしろいとは思いませんか。……

ところで、この「女性太陽説」から見たら、世の男性たちがいかにももつともらしく言う次のような言葉は、全くのデタラメということになります。

「こういう女性が、イイ女」

「あなただって、こうすればイイ女になれる」

こんなものは、男社会が作った、とんでもないウソなのです。

なぜなら、女性はみな、もともと完璧なのであり、男など足元にも及ばない存在なのだから。

女性は一人残らず、イイ女なのです。

それなのに、

「こうすれば、イイ女になれる」

なんていうのは、女性の太陽を封印しようとする「かせごう男」（この意味は後で説明します）たちの策略なのです。

そんな手に乗ってはいけません！

かせごう男たちの策略にひっかかって、太陽としての人生を、棒に振る必要はないのです。

女性よ、あなたがたは太陽なのです。

もともと、すべての女性がイイ女なのです。

逆の言い方をすれば、

「男なんて、しょせん、はるか下界にいる存在」であり、

「男はみな、女性のための使い捨て・消耗品」

それが、本書で徹底的に証明しようとしていることなのです。

イイ男をゲットする方法

イイ男をゲットする方法を、お話ししましょう。

その前に、まずは「女性太陽説」を確認してください。

「女性は太陽なる存在である」

それは、「怖いものなし」ということ。

どっしりしていていい、ということ。

「男の前で、ドーンと構えていてよいのです！」

「男に対して、へいこらす必要なんてないのです！」

（もちろん、男と闘う必要なんてないのです）

みなさんは、いかがですか。

そういう「肝っ玉姉さん」「肝っ玉母さん」のスタイルでやってますか。

それでは、男性とはどのような存在か。

男性は、どうもがいても、心に太陽などもちようがないわけですから、心に「怖いものなし」などない。

ということとは、心はいつでもオロオロしている。

ならば男性は、その弱い心を、女性から救済してもらおう以外には方法がない存在、ということになります。

別の言い方をするなら、

「男は、人生のつらい局面で、女性から憐愍の糸を垂らしてもらっただけの存在」ということなのです。

この、認識の大逆転、おわかりになりますか。

「本当は、女性の方が強く、どっしりとした存在だった」

ということなのですよ。

従来の「男は強くたくましい」は、もろくも崩れ去ってしまうのですよ。

それが、人間の本質的な見方ということなのです。

ならば、男性とは、悲しいけれども、

「太陽なる女性に尽くす人」

そう考えるのが自然なのです。

これで、答えが出ました。

「もししたら、イイ男をゲットできるか？」

その答えは次のとおりです。

① まず、女性は好きな男の前で、ドーンと構えていなくてはなりません。

まちがっても、女性の方からへいこらして、尽くしてはいけません。

好きだという意志を見せたら、後は、「肝っ玉姉さん」でいるのです。

② それに対して、男の側があなたのことを愛しているなら、必ずやあなたに、セッセと尽くし始めます。(甲斐性を見せます)

その「尽くしてくれる男」こそが、あなたにとってイイ男なのです。それをあなたが、ただゲットすればよい。

③ ゲットするにはセオリーがあり、「あなたのおかげよ。ルンルン♪」と言って、「男を立てる」というスタイルをとるのです。

もし、この時点で、さらなる甲斐性を見せない男なら、それはあなたを愛していないという意味なので、サッサと切ればよい。

あなたに尽くしてくれる男性など、山ほどもいるはずですよ。なぜなら、女性の方が明らかに優位なのですから。

まぢがつても、女性の方から男を追いかけたいけません。

サイテー男に尽くす女性

イイ男をゲットすることなんて、ずいぶん簡単ですね。

普通、女性は、この簡単な原理を「わざと複雑に考えている」ということなのですよ。

考え過ぎには気をつけてください。

「あなたのおかげで、私は幸せ♥」

そう言っつて、相手を立てることを、私は「ケア」と呼んでいます。

単にそれだけの、女性から男性に向けてのケアによって、イイ男は簡単にゲットできるということなのです。

奥さんから夫に対しての「男を立てる」言葉は、もちろんケアです。

それによって、夫は簡単に手の内に入り、一生懸命あなたに尽くしてくれるということなので

す。

では、今度は、「かせごう男」の方向から確認してください。

日本の男性は、ほぼ全員が、育ちの過程で「かせごう男」という、表面はたいへん立派だけれども、ただがむしゃらに突っ走る、暴走型の男性に育っているわけです。

この「かせごう男」というのは、私の作った言葉で、その意味とは、

「か」は金への執着。「せ」はセックスへの執着。「ご」は物やプライドへのこだわり。「う」はうまいもの（酒）への執着。

つまり、金と女と酒に執着する「こだわり男」という意味です。

今日の日本の男性像を見た時、ピッタリ当たっているようには思いませんか。

その「こだわり」の代表が、「男のプライド」というもの。

「男は、かくあらねばならない」

そんなこだわりで、自分自身をがんじがらめに縛っているのです。

当然のこと、

「女は、かくあらねばならない」

という、ものすごい「こだわり」をもっている。

その代表的な言い方が、

「女は、男に尽くすのが当たり前！」

という傲慢さです。

日本中の男性が、残念ながら「かせごう男」であるということは、男はみな、そういう傲慢さを身につけていると言えます。

「そんな男って、サイテー！」

という声が聞こえて来ます。

確かに、明治時代でもあるまいに、そんな傲慢さをもった男などサイテー男です。

しかし、日本中が「かせごう男」だということになると、女性はそう批判ばかりしているわけにはいきませんよ。

なぜなら、「子育て」として、そんな男性を日本中で育てて来たのは、他ならぬ女性（母親）なのですから。

もう一つ大事なものは、たとえ相手が「かせごう男」だと言っても、女性が心の太陽を発揮して、

「女性は本来、男性よりもはるかに優位よ」

「そんなサイテー男に、尽くす必要はないわ」

と言っているならば、何も問題は起きないということなのです。

女性における、その「気位の無さ」が、「かせごう男」をますます増長させているのですから、女性は「被害者」とばかりは言っていられないのです。

女性が「はるかに優位」ということは、「かせごう男」すら、手玉に取れるということを意味しています。

先に書いたように、太陽ほどの気位の女性になら、簡単に男性（夫）を手なずけることが可能なのです。

つまり、ここで私が女性に向かって提案したいのは次のことです。

確かに、日本の男性が「かせごう男」であるのは認めるとしても、それをうまく操縦する立場にいたるのは女性なのです。

その唯一の方法は、女性の心の太陽を、本来の高い「位置」と「輝き」とをもって行くことで、男性を下界の者たちと見ることができるようになることです。

ところが、現実には、その逆になっている。

女性が、セッセと、そのサイテー男に尽くしてしまっている！

途中省略

著者プロフィール

住吉 克明 (すみよし かつあき)

父親研究所所長

1952年 長野県に生まれる。

1975年 和光大学卒業以後、23年間、長野県内の公立学校の教員。心のセオリー「ケアする流す」を開発しながら、接した生徒は1万人を越す。

1998年 「ケア父ちゃん」によって、すべては解決されることを確認し、独立して、父親研究所を開設。

学校・P T A・教育委員会・青年会議所・商工会議所・ロータリークラブ・企業研修・幸塾等で、講演活動をしている。

著書『父親大恐慌』（総合法令）

『ケア父さんと太陽母さん』（評言社）他多数。

心に太陽をもつ女性たちへ

——不登校・キレル夫・17歳問題等がたちまち解決!

2001年3月31日 電子出版発行

著者 住吉 克明

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社 芸芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-1

電話 03-5369-3060（編集）

03-5369-2299（販売）

<http://www.boon-gate.com>

©Katsuaki Sumiyoshi 2001. Corded in Japan.

新 01.03.20 Y.H. 改 01.05.15 Y.H.